

【PwC／NEC／NICT】

# 海底ケーブルの最前線と未来像

講師

PwC コンサルティング合同会社 PwC インテリジェンス シニアアソシエイト 榎本 浩司 氏  
日本電気株式会社 海洋システム事業部門 事業開発統括部  
事業戦略グループ ディレクター 村上 求 氏  
国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT) ネットワーク研究所  
フォトニック ICT 研究センター フォトニックネットワーク研究室 室長 古川 英昭 氏

日時 2026年8月19日(水) 午後1時30分～4時40分  
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)  
会場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

## I. 不確実性の高まる国際社会における海底ケーブルを取り巻く環境の変化

榎本 浩司 氏 【13:30～14:35】

国際社会では地政学やサプライチェーンの面で分断が進み、不確実性が高く先行きを見通しにくい情勢が続いている。一方、テクノロジーの進展により変化する産業構造の中で、社会の基幹インフラである海底ケーブルの重要性は益々高まっている。マクロな国際環境の変化に伴って複雑化する地政学リスクは海底ケーブルを取り巻く環境にどのような影響を与えるのか。最新の情勢を踏まえて現状を整理し、将来の展望について考察する。

1. 不確実性の高まる国際社会と複雑化する地政学リスク
2. 産業構造の変化により高まる海底ケーブルの重要性
3. 海底ケーブルをめぐる国際社会の動向
4. マクロ環境の変化が海底ケーブルに与える影響
5. 質疑応答／名刺交換

## II. ハイパースケーラーの台頭と国際通信インフラの変遷

村上 求 氏 【14:45～15:50】

～需要構造の変化に応える海底ケーブルシステムの最新動向～

国際通信の99%を担う海底ケーブルは、AIの普及を背景としたハイパースケーラーの台頭により、かつてない需要急拡大を迎えています。

本講演では、この市場の最新動向を解説するとともに、国際情勢に伴う経済安全保障や地政学リスク、さらには自然災害といった海底ケーブルが直面する主要な課題を提示します。現代社会の命綱であるインフラが直面するこれらの外的リスクに対し、いかなる視点で強靱かつ安定的なネットワーク維持を考えるべきか、NECの知見を基に展望します。

1. 海底ケーブル事業の概要とNECの市場におけるポジション
2. 海底ケーブルシステムの建設・敷設プロセス
3. 通信市場の変遷と最新の技術・ルート動向
4. 海底ケーブルを取り巻く主要リスクと今後の展望
5. 質疑応答／名刺交換

## III. 将来の海底ケーブルにおける大容量光ファイバ伝送と光ファイバセンシング

古川 英昭 氏 【16:00～16:40】

国際通信の約99%を担う海底ケーブルは社会基盤として重要性が増し、AI普及に伴うトラフィック増大に対応するため大容量化が急務である。シングルモード光ファイバベースの既存光通信システムの限界を超える新たな大容量光ファイバ伝送技術の最新動向を概説するとともに、海底ケーブル防護の要となる光ファイバセンシング技術について紹介する。

1. 海底ケーブルの現状と将来に向けた課題
2. シングルモード光ファイバベース光通信システムの容量限界
3. マルチコア光ファイバを用いた大容量光ファイバ伝送技術の最新研究開発動向
4. 海底ケーブル防護に向けた光ファイバセンシング技術の重要性
5. 質疑応答／名刺交換

